

研究機関名：東北大学

受付番号： 2012-1-352
研究課題名 子宮頸部小細胞癌に対する治療法・予後についての後方視的研究
研究期間 西暦 2012年10月（倫理委員会承認後）～2012年12月
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（診療録の調査）
上記材料の採取期間 西暦 2000年 1月～2011年12月
意義、目的 子宮頸部がんの90%以上は扁平上皮がんおよび通常型（類内膜腺がんまたは内頸部型腺がん）の腺がんである。一方、子宮頸部小細胞癌をはじめとする神経内分泌腫瘍は子宮頸癌のまれな組織型であり、本邦においても小細胞癌は浸潤子宮頸癌の約1%を占めるにすぎない。しかし、子宮頸部小細胞癌は、早期癌症例においてもリンパ節転移や遠隔転移を来す頻度が高く、また、進行期癌症例の比率が高いことから、扁平上皮癌に比べて極めて予後不良であることが知られている。子宮頸部小細胞癌は予後不良な疾患であるにもかかわらず、稀少がんであるため治療指針のエビデンスが乏しく、診療に苦慮することがある。本研究では、東北大学病院婦人科で行われている治療法を後方視的に解析し論文として発表することで、標準治療の確立のためのエビデンスを提供することを目的としている。
方法 2000年1月1日から2011年12月31日までに組織学的に子宮頸部小細胞癌と診断され、東北大学病院婦人科で治療を行った9症例を解析の対象とする。対象例の背景因子、治療法と治療効果、病理所見、予後に関するデータを診療録から集積し、後方視的に解析する。論文発表の際には、患者の氏名、イニシャル、カルテ番号の情報が公表されることはない。また、診療録をもとにした観察研究であるため、研究対象者に危険や不利益が生じることはない。
問い合わせ・苦情等の窓口 東北大学病院産婦人科 永瀬智（研究総括者） 〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1 電話：022-717-7254 FAX：022-717-7258 E-mail：nagases@med.tohoku.ac.jp